

前回の
1.5倍

33,000人を超える来場者で賑わう



2023年11月15日(水)～17日(金)の3日間、パシフィコ横浜において開催された協会主催のEdgeTech+2023。“エッジ”の現在と今後に切り込んでいく注目の技術、先進の応用分野とくプラスの新技术・分野を厳選し、展示とカンファレンスで多くの技術者に最新情報を発信しました。企画や併催イベントを交え、その一部を紹介します。

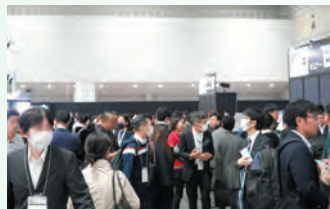
2/2 (金)まで
オンデマンド
配信中

詳細・オンデマンド視聴は
公式サイトへ

<https://www.jasa.or.jp/expo/>

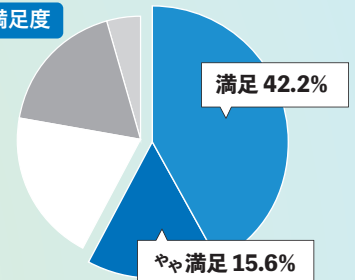
展示会

前回より出展規模が拡大。さらに今回は、大きな変革期を迎えた自動車開発におけるソフトウェアテクノロジーにフォーカスした特別企画『オートモーティブ ソフトウェア エキスポ』も大いに注目を集めました(→P9)。来場者からは「今回の企画は非常に良かった」「来年以降も同時開催を」と声が聞かれました。



◀会員企業で構成されたJASAパビリオン

出展の満足度



参加企業・団体数 **342社・団体** (304社・団体)

来場者数 **33,128名** (22,081名)

()内は2022年実績

好評を得たテスラモーターズジャパン試乗会▶



カンファレンス

多彩で充実した内容で実施するカンファレンスは特徴の一つ。立ち見となった会場も多く、前回は大幅に上回る聴講者を集めました。



◀JASAセミナーでは11セッション実施
(P14に関連記事)

4つのセッショントピックス

EdgeTech+

D X

EdgeTech

オートモーティブ

セッション数 **150セッション** (158セッション)

聴講者数 **12,803名** (7,281名)

()内は2022年実績

今回も人気を集めた東洋大学INIAD学部長 坂村健氏▶



特別企画



定番のアワード、フェスタ、イノベーションチャレンジ、ETロボコンをはじめ、チップミュージアム、学生向け見学ツアーの交流祭典なども実施しました。
(P10～P13に関連記事)

新企画「オートモーティブ ソフトウェア エキスポ」 充実したカンファレンスと展示で大いに盛り上がる

ET事業本部長 渡辺 博之

当協会が主催する展示会「EdgeTech+」は、最新のエッジテクノロジーに加え、それを活用した応用分野から事業変革に必要な最新のデジタル技術までに至る幅広いソリューションやテクノロジーを紹介する場となっています。そして昨年11月に開催されたEdgeTech+2023では、この応用分野の一つでもある、自動車産業におけるソフトウェア開発技術とその最新動向にフォーカスした特別企画「オートモーティブ ソフトウェア エキスポ」を開催いたしました。本稿では主にこの「オートモーティブ ソフトウェア エキスポ」について紹介します。

エッジテクノロジーの応用分野のひとつである自動車分野では、近年ソフトウェアの重要性がますます高まっています。現在の自動車はもはや単なる移動手段ではなく、高度なテクノロジーが組込まれたスマートなデバイスであり、自動運転、車載エンターテインメント、セキュリティシステムなど、様々な機能がソフトウェアによって実現されています。そのため、高品質で信頼性の高いソフトウェアの開発が不可欠となっています。

オートモーティブ ソフトウェア エキスポは、このような自動車ソフトウェアの重要性を広く認識し、関連する企業や専門家が集まる場として、EdgeTech+の特別企画として今回新たに開催しました。

オートモーティブ ソフトウェア エキスポは、EdgeTech+同様、最新動向を扱ったカンファレンスに加え、これからの自動車開発に必要なソフトウェア技術や製品、サービスが展示され、自動車業界の未来を担うソフトウェア開発者やエンジニアにとって貴重な情報交換の場となりました。

実際にカンファレンスに登録された方の業種構成を見ると、

・ 自動車関連	30%
・ その他製造業	20%
・ ソフトウェア開発	20%

となっており、自動車関連はもちろんですが、自動車以外の業種の参加者が目立っています。



定員のおよそ2.5倍もの聴講者が集まったトヨタ自動車・村田賢一氏の講演の様子

この数字からは、

- ・ 自動車のソフトウェア開発が最新のエッジテクノロジーになりつつあり、他の製造業の方もこの分野を注視していること
- ・ ソフトウェア開発ベンダーから見ると、自動車のソフトウェア開発が今後のマーケットとして重要であることが見て取れます。

今回のオートモーティブ ソフトウェア エキスポでは、さまざまなカンファレンスが開催されました。

具体的には、①今回のメインテーマともなったSDV (Software Defined Vehicle)を取り巻く技術トレンドやそのために必要なアーキテクチャに関するもの、②もはや自動車のソフトウェア開発には欠かせないMBD (Model Based Development)の導入ノウハウや事例報告、③車載ソフトをアップデートするためのOTA技術の解説、④自動車開発へのオープンソース適用のノウハウ、⑤欧州における自動車サーバーセキュリティ認証の動向、⑥それらを内製化するために必要なリスティング事例などが挙げられます。多岐にわたるテーマについて業界のリーダーや専門家が最新の知見を提供しました。

その中でも、特にトヨタ自動車デジタルソフト開発センター フェローの村田賢一様の「SDVとコネクティッドカーをとりまく技術トレンド」と題した講演には、300名収容の会場を大きく上回る720名もの聴講者が集まり、さながらコンサート会場のような盛り上がりを見せていました。

展示会でも、初めての企画にも関わらず、42社が出展し、自動車ソフトウェアの開発やテスト、セキュリティに関するソリューションを展示していました。出展社のブースでは、最新の製品や技術のデモンストレーションが行われ、来場者は担当者から直接話を聞いたり、製品を試したりと展示会ならではの体験を楽しんでいました。

今回初めての開催となったオートモーティブ ソフトウェア エキスポですが、自動車業界におけるソフトウェアの重要性を再認識するとともに、関連する企業や専門家が集まり最新のソフトウェア技術や製品を共有し、さらには自動車業界の未来を見据えることができる重要なイベントとなりました。

これを踏まえ、今年にはさらに企画を拡充する予定です。引き続き、EdgeTech+ともども期待いただければ幸いです。



第2回トップリーダー倶楽部

当協会は、「JASAビジョン2030」で新たな6つの施策を打ち出しています。その1つの「経営者向けプログラム」の一環として、「いま、トップリーダーに求められる①知識②人脈③協創の場」を標語に、第2回トップリーダー倶楽部を開催しました。

EdgeTech+併設会場で行った本セミナーは、昨年度を上回る47名のJASA会員経営者の方々に参加頂きました。“生成AI”技術活用経営をテーマとした講演と、パネルディスカッションを実施しました。“生成AI”への取組みを知ることができ大変有意義な意見交換の場を醸成できたように思います。



セミナー終了後、その熱量を保ちながら、場所を移して懇親会を開催しました。旧知の方、初めてお会いする方、地方との情報交換など、有意義な場の提供ができました。懇親が深められ、参加者一様に「満足度が高く得るものがあつた」と事後収集したアンケートに記して頂きました。

2023年 第2回トップリーダー倶楽部 開催報告

- 参加者 47名20社
- 場 所 講演 パシフィコ横浜 ハーバーラウンジB

「AIは人を超えるのかモノづくり業界への衝撃とビジネスチャンス」

東京大学次世代知能科学研究センター 教授
東京大学大学院情報理工学系研究科
附属情報理工学教育研究センター 教授
東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻
担当教授 松原 仁 様

「生成AIの企業内向け活用最前線」

生成AIを使い倒してビジネスを加速！

リコーの最新生成AI開発内容から、最新事例までお話しします。

リコーデジタルサービスBU AIインテグレーションセンター
所長 梅津 良昭 様



松原 仁 様



梅津 良昭 様

パネルディスカッション“経営者の意識改革”

司 会 横田 英史 JASA 広報委員長
パネリスト 松原教授、梅津様

オープンイノベーションサミット横浜

当協会は、横浜市、横浜未来機構と連携し、第3回オープンイノベーションサミット横浜を開催しました。GX分野を中心に国内外から人材や企業などの活力を呼び込み、オープンイノベーションを目指すY-SHIP 2023が、11月14日・15日にパシフィコ横浜にて開催されたこともあり、海外スタートアップ企業の参加もいただきました。

展示会では、自社の製品の売込みが中心ですが、講演者から



オープンイノベーションに対する発表をいただき、聴講者から売込みを行ってもらうことを目的として実施しました。

今年は、9社が講演を行いました。海外の企業の参加も多く、SDG'sを前提の事業紹介もあり、多くの聴講者との情報交換も実施でき、新しい息吹を感じることができました。

オープンイノベーションサミット横浜

2023年11月15日(水) 14:30~17:00

1. イスラエルの最先端技術、イスラエルと横浜を繋ぐビジョン

—イスラエルのエコシステム、ビジネスチャンスと課題

(株)ノゾミ 代表取締役 Gal Vered 様

イスラエル大使館 経済部代表 公使 Daniel Kolbar 様

2. スマホ画面を見ない、Well-beingナビガイド

LOOVIC(株) 代表取締役 山中 享 様

3. 大企業との共創事例

(株)エフィシエント 代表取締役社長 脇坂 健一郎 様

4. 海外スタートアップ6社が来日！

モビリティイノベーション・ピッチステージ

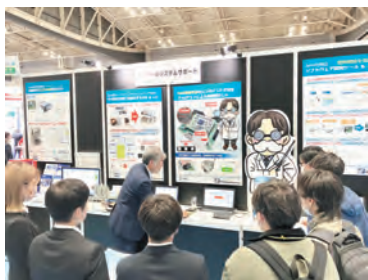
cogniBIT GmbH社、COMPREDICT GmbH社、

Greenbox Mobile Energy GmbH社、

Flo Mobility Pvt. Ltd.社、OFO TECH SDN BHD社、

PreAct Technologies Inc.社

交流祭典2023 in 関東



◀ブースを見学する参加者
▼企業プレゼンテーションの様子



▲交流会風景

人財交流委員会では、学生・学校関係者向けイベントの「交流祭典」を初めて関東で開催いたしました。本イベントはJASA会員への新卒採用活動の支援を目的としていますが、長期的にはJASAと学生・学校関係者との継続的な関係構築を目指しています。

関東初の今回は「EdgeTech+」展示会場と会場周辺で、展示会初日の11月15日(水)に開催いたしました。第一部では学生・学校関係者を対象としたJASA会員出展企業7社の展示会場内のブース見学ツアーを実施し、展示物を見ながら担当者が説明をすることで組込みシステム業界を学生・学校関係者に体感していただきました。その後、カンファレンス会場に移動し、非出展のJASA会員企業5社の企業情報をプレゼンテーションしていただきました。

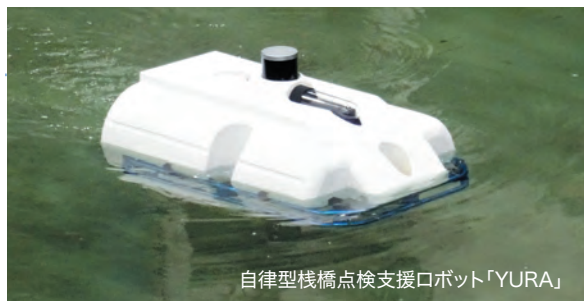
第二部は展示会場近くのレストランに場所を変え、JASA会員企業と学生・学校関係者を集めた交流会を立食形式で開催いたしました。交流会は第一部には参加していないJASA会員のエンジニアや営業担当者にも多く参加いただき、名刺交換や会社紹介を直接

行っていただくことで企業・学生・学校間で交流することができました。壇上での会社担当者紹介やビンゴ大会も行い、景品獲得した学生・先生や会社担当者のコメント発表もあり大いに盛り上がりしました。

今回参加した学生・学校関係者は14校34名、JASA会員は16社35名で初回開催にもかかわらず多くの方にご参加いただくことができました。参加学校は国公立大学、私立大学の理系学生が多く、学校関係者では先生に多く参加いただきました。開催後の参加者アンケートでは交流するのにいい機会となった等の好意的な意見が多かったものの、就活している3年生の参加者数の増加を要望するご意見もあり、来年度以降の開催では改善をしていく予定です。

人財交流委員会では交流祭典終了後も継続的に、学校関係者へのフォローアップを行い、就活支援の他イベントとも連携させることで、JASA会員への新卒採用活動支援につながるように活動をしていきます。

人財交流委員長／イーエルシステム(株) 安藤 亘



自律型栈橋点検支援ロボット「YURA」

自律型栈橋点検支援ロボット「YURA」を展示

狭隘な個所の点検、作業の安全性などの課題があります。そこで開発したのがYURAです。

3D LiDAR、IMUなどから構成される揺動抑制システム²⁾を搭載し、波高30cm、周期2秒の強い波浪状態でも設定航路から±50cm以内で自動航行が可能です。4K 360度カメラ、ローカル5Gアンテナなどから成る高速通信システム(センサーへのアクセスにはOpenELを採用)によって、点検個所の高精細映像の高速リアルタイム送信ができます。

90×60cm、35kgと小型軽量のため大人2名で持ち運べ、少人数で運用できます。2024年にまず五洋建設様に販売し、実際に利用いただく予定です。その後、他の栈橋点検事業者やリース事業者への販売を予定しています。EdgeTech+ 2023では、ダム、管渠、海上警備などの用途でも使いたいとお声をいただきました。

アップウィンドテクノロジー・インコーポレイテッド
代表取締役社長 中村 憲一

(地方独立行政法人)東京都立産業技術研究センター様、東京都立大学様、五洋建設株式会社様とアップウィンドテクノロジーは、自律型栈橋点検支援ロボット「YURA」(Your Under-the-pier Robotic Assistant)を共同開発し、EdgeTech+2023で展示しました。都産技研の中小企業向け公募型共同開発研究「5G・IoT・ロボット普及促進事業」の支援を受け開発したものです。

高度経済成長期に整備した施設は老朽化が進んでいます。約5000ある係留施設は、建設後50年以上の施設が2020年3月の約2割から、2040年3月には約7割に急増し、点検が急務となっています。しかし点検技術者の不足、範囲の広さ、人が入りにくい

1) 国土交通省港湾局技術企画課港湾保全政策室、「国土交通省における港湾施設の維持管理の取組について」、2021年11月26日
<https://www.scopenet.or.jp/main/course/pdf/110305/01-kokkosyo.pdf>

2) 特許第6982506号、五洋建設株式会社・東京都立大学法人、「水上移動体制御装置」、特許第6986706号、五洋建設株式会社・東京都立大学法人、「水上移動体制御装置」、2022年3月出願、五洋建設株式会社・東京都立大学法人、「船舶の揺動抑制システム、方法及びプログラム」

ETロボコン チャンピオンシップ大会

2023年11月16日(木) 決勝大会 17日(金) ワークショップ 実施

ETロボコンはエンジニアの人材育成と技術教育の機会を提供することを目的として、数多くの参加者やスポンサー、パートナーのみなさまに支えていただき、2002年から毎年継続して開催され、今年で22年目です。

プログラム、設計技法が未経験、これから初めて学びたい人に向けたカテゴリである「エントリークラス」の大会が、全国43チームが参加し、10月22日(日)に開催されました、競合チームがひしめく中、「CICフィフティイアーズ(株式会社CIC)」が総合優勝の栄冠を手に入れました。

エンジニアに必要なテクニカルスキル、プロジェクトマネジメントを基礎／基本から学びたい人向けの「プライマリークラス」、応用技術である、新しい技術／仕組みを学びたい人向けの「アドバンストクラス」の両者が参加する「ETロボコン2023 チャンピオンシップ大会」は、全地区大会を勝ち抜いた40チー

ム(プライマリークラス30チーム、アドバンストクラス10チーム)が、全国から集まり、11月16、17日の2日間、パシフィコ横浜の展示ホールで開催中のEdgeTech+ 2023内に設けた特設会場にて開催しました。

プライマリークラスでは、南関東地区代表のITS Labo(パナソニックITS株式会社)が前半で失敗したものの、後半ではロケットスタートから慎重に全ての難所をクリアし、パーフェクトで見事ゴール! 競技優勝となりました。

アドバンストクラスでは、競技、モデル(設計)部門いずれもトップ成績で文句なしの優勝となり、東海地区のHELIOS(株式会社アドヴィックス)が総合優勝を勝ち取りました。

企業チームの検討はもちろんのこと、教育機関チームも優秀賞を受賞され、例年通りの熱戦が繰り広げられ、大変盛り上がるチャンピオンシップ大会でした。

チャンピオンシップ大会の結果 https://www.etrobo.jp/championship2023_award/

2023年
大会の様子



🔊 現在、ETロボコン2024の開催に向け、準備を進めています。
2月14日(水) 13:00からオンラインで開催発表会を実施しますので、ぜひご参加ください。

詳細は公式サイトで <https://www.etrobo.jp>

人財交流委員会

業界研究セミナー実施報告 ～学生・教育者対象にウェビナー開催

人財交流委員会では12月9日(土)に業界研究セミナーを開催いたしました。本イベントは就活生・就活準備の学生、学校法人(先生・就活指導者)を対象としたウェビナーとなっており、組込みシステムの業界の理解を深め、JASA会員企業を就職先として検討いただくためのPRの場として毎年開催しています。学生・学校関係の参加者は事前にWebによる組込みシステム業界の紹介動画「未来を紡ぐ組込みシステム開発」を見ていただくことで、業界の知識を得ていただきました。当日はJASA会員企業10社から会社紹介およびアピールポイントのプレゼンを実施し、学生・学校関係者が参加しました。

企業プレゼンおよび質疑応答では企業説明だけではなく、働き方やキャリア形成方法の説明、リモートワークや育休の取得状況などの具体的な説明もあり、就職を検討している学生にはとても有用な情報になったかと思います。またプレゼン中には投票システムを利用した質問、資料請求、エントリーの受付を実施し、こちらも多く活用いただきました。ウェビナーということで、参加者が場所に絞られることなく様々な地域からの参加がありました。

本イベントが今後のJASA会員企業と学生・学校関係者との交流、就活・採用支援の一助になればと思います。

イノベーションチャレンジ 決勝大会 2023年11月17日(金) 実施

イノベーションチャレンジとは、デジタル社会をけん引できる人材として、新たな目的に向かって事業を牽引する「トランスフォーム人材」や変革に対応するための「提案型人材」を育成することを目的とした実践プロジェクトです。基礎的な理論を習得し、幅広い知識を得ると共に、動画によるオンデマンド学習、オンライン参加型のワークショップを通じて、思考力や企画力などの実践的な力を育み、今までにない新しいビジネスの企画・立案にチャレンジします。

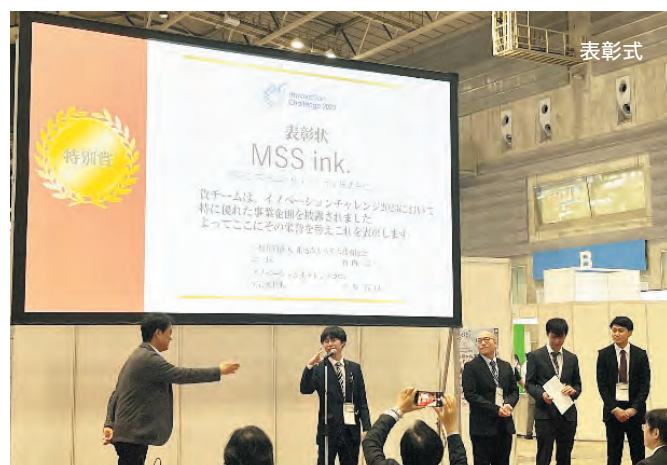
全プログラムオンライン開催し、今年は計14チームがエントリー、一次審査、二次審査を通過した6チームファイナリストが、11月17日(金)、パシフィコ横浜で開催された「Edge Tech+2023」にて、熱いプレゼンテーションを繰り広げました。

優勝チームのNEXTCACは、メンバー全員が2年目の社員で、これからのシーエーシーを担っていくという思いがチーム名に込められています。同期だからこそお互いの意見をぶつけあひながら、アイデアを考えることができたそうです。

チームメンバーからは、「審査を経ていくなかで人を納得させるための論理的思考力が成長した。参加以前と比較し、物事を論理的に捉えられるようになったと実感しています。」と今回の参加により成長できたとのコメントが寄せられました。

また、「日常の様々なシーンにおいて『ビジネスチャンスがないか』という視点を持って考えることができるようになり、参加する前と比べると、アンテナをより広く張って情報を受け取れるようになった」「未経験の0から1を生み出す工程で、必要な考え方や発想を身に付けることができた。今後は提案・企画の機会を増やし案件獲得を実践していきたい」と参加したことによる成長を感じているようで、例年に劣らず、参加企業の次世代育成や新しいビジネス企画のきかけとなる場を提供することができたプロジェクトとなりました。

今回考えた受賞企画が、本プロジェクトだけに留まらず、社会実装を目指して活動が継続されることを期待しています。

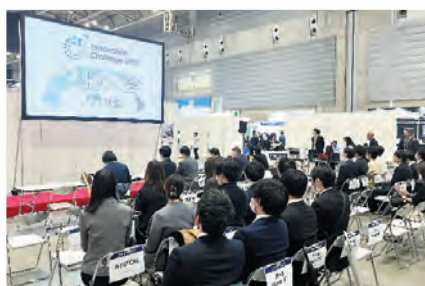


優勝 NEXTCAC (株)シーエーシー	準優勝 SDCs (株)ソルクシーズ DeruQui (横浜市立大学大学院、 立命館アジア太平洋大学、 慶應義塾大学)
第3位 タンメンタイガース インフォテック(株) 同志社大学	特別賞 MSS ink. 明電システムソリューション(株)

●ファイナル進出チーム ※登場順

チーム名/所属名 『企画タイトル』

1. MSS ink./明電システムソリューション(株)
『新たな教育現場を形作るプラットフォーム』
2. チーム Yearn IT/(株)エヌアイディ
『Bonita Mariquita』
3. Zerolchi/(株)日新システムズ
『ピカクレ』
4. NEXTCAC/(株)シーエーシー
『Onsite+』
5. タンメンタイガース/インフォテック(株)、同志社大学
『人類坊主計画』
6. SDCs/(株)ソルクシーズ、DeruQui
『MEM』



▲会場とオンラインのハイブリット開催
 ▲ファイナリストは会場にてプレゼン



決勝大会詳細 <https://innovation-challenge.biz/2023final/>